



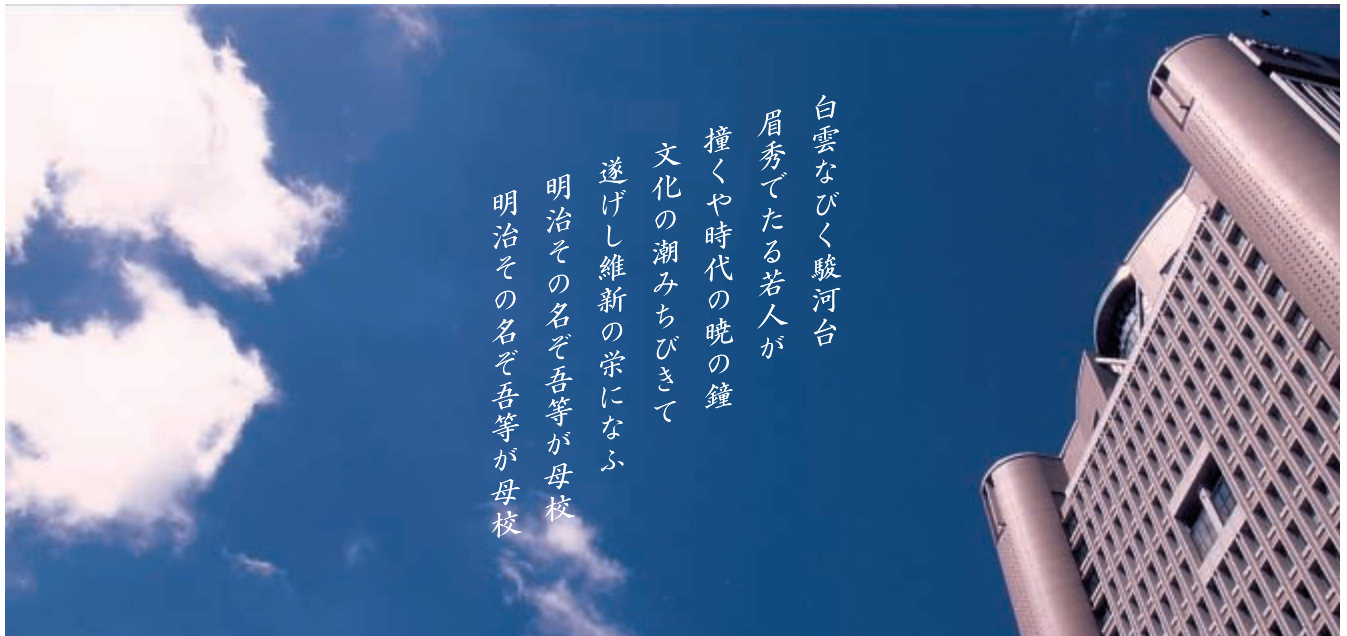
第337号

〈卒業生特集号〉

2005年(平成17年)

3月26日

発行 明治大学
 編集 明治大学広報部
 TEL 03(3296)4083
 E-mail: koho@mics.meiji.ac.jp
 東京都千代田区神田駿河台1-1(〒101-8301)
<http://www.meiji.ac.jp/>



白雲なびく駿河台
 眉秀でたる若人が
 撞くや時代の暁の鐘
 文化の潮みちびきて
 遂げし維新の栄になふ
 明治その名ぞ吾等が母校
 明治その名ぞ吾等が母校



歴史に学び、そして「前へ」

総長兼学長 納谷 廣美

3月、人々がこれまでの生活に別れを告げ、そして人生の新しい旅に出ることが多い。自然も、新しい息吹きを告げる。我が国では、この時期に卒業式が挙行されることが多いが、この卒業という言葉には、物事の終わりを感ずせるところがある。一般的には、卒業式を graduation ceremony (exercises) と英訳するが、私はアメリカで用いられている commencement exercises の表現に魅せられている。この commencement という語は、通常、開始と始まりと和訳されていることから、「卒業は新人生の始まり」との側面をうまくとらえているからである。物事には「表と裏」または「光と影」などと表現される一

面性があるように、卒業についても「終わり」と始まりの全く異なる見方があっても不思議ではない。それならば大学の卒業式では、若者向けに、とくに明治大学では「前へ」の心構えが伝統として定着しているわけであるから、「始まり」に重点をおく米語訳の方がふさわしいのではなからうか。卒業をめぐる訳語の当否は、この位いでとめおくことにして、この3月に明治大学における学生生活を終えて社会に出ていけるみなさんに、なにかはなむけの言葉を贈りたいと思う。しかし前から贈る言葉をいろいろと考えてきたが、この文と同時に「告辞」案を作成することが求められていたこともあって、どうも筆がうまくすすまない。これからの記述は、卒業式当日の告辞を補完するものと受けとめていただければ幸甚である。

このたび卒業されるみなさんは、新しい世紀、すなわち21世紀になってから明治大学に入学・進学されている。本学で学生として過ごされた時期は、わが国の経済は長期低迷に陥り、なかなか景気が回復しなかったし、また昨年が「災」と漢字で総括されたように地震、大型台風、集中豪雨さらには大洪水など自然災害に見舞われ、どちらかといえば明るい話題が少なかつたといえよう。さらに残酷極まりない事件も多発した。世界では、アメリカの一極化が進むなかで宗教や民族間の対立による局地的な武力紛争やテロの恐怖などが多発している。いずれにせよ全体として、人びとには、気持のうえで心ゆとりや感動を感じることが少なかつた時期といえるのではないだろうか。社会の質的転換を迎え、既存のパラダイム(枠組み)の見直しと、その変革が求められている時代に入り、人びとが「行先不透明」との不安感のなかで、戸惑いを覚えているものと思われる。このような時代には、人類がたどってきた歴史のタテ軸とヨコ軸に照らして、自らの位置を確かめることが必要であろう。そこで、お金や武力(権力)だけでは解決できないことを知るとともに、改めて人間として有すべき美しい心や叡智を発見することができることを確信する。それでも、みなさんがこれからの人生において難局に遭遇することもあると思われるが、その時には、私は①様々な問題につき「直視」すること、②変化に対応することも大切であるが、変化させてはならないものがあることを忘れないこと、および③初志(基本)に戻ることですすめたい。そのうえで、みなさんには「力強く『前へ』歩め、そして生きよ。」と訴えたい。みなさんの幸多きことを祈る。



この春陽の佳き日に、所定の課程を修了し、卒業式を迎えられたことを心より、お慶び申し上げます。

みなさんは、本日、人生の大きな節目となる日を迎えられました。この「卒業」という舞台は、みなさんにどのような感慨をもたらしているのでしょうか。
みなさんが明治大学で過ごした時は、これまでの人生、またこれからの人生を考えれば、僅かな時間なのかもしれません。しかし、みなさんはその時間を有意義に、そして澁刺と過されたことでしょうか。時間という概念に「濃さ」や「深さ」という尺度が加われば、明治大学における時間は、みなさんの人生において、格別の価値を有する期間であったに相違ありません。

さて、3月から4月にかけて、年度が変わり行くこの時期は、1年のうちで最も変化に富んだ時期であり、一つの成熟を迎えた者が、新たな活躍の場を求めて、旅立ち、羽ばたく時期です。

社会においては、親ほども離れた年代の方々との時は、パートナーとして、また、ある時は互角に渡り合っていくなくてはならないことがあります。このことはみなさんを不安に陥れるかもしれません。ただし、これまででもそうであったように、人は初めから完璧であ

る必要はありません。もちろん、成功のための努力は大切なことです。もし、みなさんがどうしても成功・失敗に拘るのなら、失敗しないための最も効果的な対処法は「新しいことに取り組まないこと」です。しかし、言うまでもなく、失敗しないために新しいことに挑まず、自分の常識・知識内で

前進し続けよ 明大人

理事長 長 吉 泉

みなさんが踏み出そうとしている現代社会は、日々進展しつつ、複雑・多様化しており、求めらるる力量も、刻々と変化しています。そのような今、ひたすら周囲から吸収し、来たるべき好機を待ち構える姿勢でいるこそが、明大人としての気概ではないかと思っ

ています。
本学も時々刻々と変化する世相の中で、新たな局面を迎えようとしています。伝統を継承しつつもこの成熟に安寧せず、教育・研究のさらなる追究を目指し、新大学院・新研究科の設置、これに伴う施設の整備等、社会に必要とされる大学を目指し、邁進しています。
将来みなさんが社会において、更なる知識の必要性を感じた時、深い思索に身を委ねたい時、その知的欲求を充足させ得る場となっているよう、生涯教育にも注力しています。

卒業は、教育課程における一つの区切りであり、本日を境に、みなさんは「校友」となります。しかし、みなさんが、今後とも「明大人」であることに何ら変わりはありません。本学が一層進化していくためには、卒業後、社会で活躍するみなさんの力をお借りする時が、必ず来ることでしよう。

本学は、みなさんと共に歩を進めるべく、引き続き、教育・研究体制を整えらるとともに、卒業生組織である校友会との有機的な連携の下、その結束を一層強固なものとしていく所存です。
ここに新たな門出を迎えた「明大人」が躍進し続けることを祈念して、お祝いの言葉といたします。
(卒業式式次第より転載)



ご卒業おめでとうございます。日頃のたゆまざる努力が実を結び、めでたく卒業されますことを心からお祝い申し上げます。

新たな挑戦を!!

校友会会長 青木 信樹

新しい人性への門出にあたり、大きな夢と希望を膨らませ、はるかなる未来に思いを馳せ、それぞれの道へ翔たかれようとしておられます。
校友会の仲間として、みなさ

対応に、何時でも挑戦できるようなそれぞれの目標に向かって、切磋琢磨され、自己啓発に努め、知恵と勇氣と情熱をもって大きく羽ばたいて下さい。
昨今の日本経済は、常識破壊と

時代どの世代をとってもありませんでした。そんな社会に生きていくためには、感謝の心と世界に放する一つの儀式といえるでしょう。人間社会は、儀式を通してこそ次の段階へと進むことができるのです。卒業という儀式に感謝をしてみてください。
自己のころを素直に見つめられる人が、自らもて存分に発揮できる人ではないでしょうか。



ご卒業おめでとうございます。明治大学のあるべき姿を存分に発揮して

己の本領を存分に発揮して

連合父母会会長 石橋 良一

えられたみなさんは、きっと各々の心のうちに、様々な心模様を描いていることではないでしょうか。完全燃焼をしたという人も、いやいや、まだまだだったという人も、部活動に充実した人もいれば、アルバイトが勉強になったという人も。そして

をどうかみなさん、心の奥深くにしっかりと受けとめてください。絶対的価値を具現する人になる学生時代は同年代、同価値観の集まりでした。しかし、卒業後の社会は、文字通り様々な価値観の交錯する世界です。昔から、若者にとって、敵しくない世界はどの

母校を旅立ち さらなる活躍を

グローバル化の時代ですが、日本の世界化はまだです。携帯電話がその一例です。外国で使われる最新の機種が日本では使えない。外国人からそういう苦情を聞くことがあります。先進的であればならない分野で、世界の潮流から遅れている部門が多いのです。研究についても同じことがいえます。日本語で書き、日本語で説明する時代ではもはやないのです。ところがここには、鎖国の時代が今も残っています。研究成果が日本を離れることはきわめて少ないのです。卒業されるみなさん、グローバル化はみなさんの手中にあります。創意と工夫を重ね、世界を舞台に活躍されることを祈念しています。

世界を舞台に

大学院長 中邨 章



とに社会科学では、鎖国の時代が今も残っています。研究成果が日本を離れることはきわめて少ないのです。卒業されるみなさん、グローバル化はみなさんの手中にあります。創意と工夫を重ね、世界を舞台に活躍されることを祈念しています。

卒業おめでとう。

明治大学で学んだこと、経験したこと、それは必ずこれからの始まりにとって基礎となるでしょう。そしてこれからのみなさんの学ぶことがあります。学ぶためには周囲の人々を肯定することから始めるといい。君たちのこれまでの人生よりも世界のほうがはるかに豊かであることは間違いないから。前進するためには帆をいっばいに広げて世界

世界の豊かさを君の帆に

法学部長 土屋恵一郎



の風を受けとめることだ。前へ！それは明治スピリットだった。そのためには、世界の豊かさを君の帆に受けとめなければならぬ。批判も肯定をとおしていなければ独善になる。世界の風を感じ、そして君自身の風を生み出してください。

ご卒業おめでとうございます。今日まで卒業生をご支援下さったご父母ならびに、ご関係の皆様にご心からお祝い申し上げます。声高らかに、よろこびを謳いましょう。未来への跳躍を前に、今、この一瞬を永遠の記憶にとどめましょう。力漲る美しい時間。

力漲る美しい時間

商学部長 福宮 賢一



を胸によるごびの歌を謳いましょう。未来に向けて謳いましょう。卒業生のみなさんの人生に栄光あれ、祝福あれ！獅子奮迅のご活躍を期待してやみません。

信なくば立たず。これは、三木武夫が総裁選に出馬したときの言葉です。フランシス・フクヤマの邦訳書のタイトルとしても知られます。両者の背景やニュアンスは異なっていますが、信頼を重んじる点では通底しています。他者を信頼し、また自己も他者から信頼される。これが基礎になって、はじめて意味のある大きな仕事もできるのです。

信頼の輪を基礎に

政治経済学部長 飯田 和人



そのためには、何よりもまず言葉が大切です。どうにでもとれ、つねに言い訳が用意されているような言葉遣いをする人間からは決して信頼の輪は生まれません。このことを肝に銘じて、おおいなる未来へと羽ばたいて下さい。卒業おめでとう。

ご卒業おめでとう。みなさんは「失われた10年」といわれた歴史的激動期のなかで育ち、入学した2001年にはニューヨークで9・11事件がありました。このような中、みなさんは青春を謳歌し、今日、新しい門出の日を迎えました。

考えて、さらに前へ！

文学部長 吉村 武彦



の40年にわたる社会人生活を、「前へ」というプラス思考のもとで活躍して下さい。過去の20世紀は「戦争の世紀」でしたが、この21世紀を「平和な知の世紀」にするため、ともに考えて、さらに前へ進んでいきましょう。

ご卒業、おめでとうございます。明治大学の校風は、「独立自治」、現代風には、「個を強くする」ですが、これは、「個人として自立している」ということを意味しているはず。理工学部の4年間、または大学院を入れた6年間、先輩・後輩、教職員と一緒に過ごした思い出の生田キャンパスは、自立した技術者や社会人になるための学びの場でした。みなさんが今飛び込んでいく現実の社会は、激動の真っ只中には、激動の真っ只中には、ありまます。若者にとって、飛躍の好機です。自立した社会、しっかりとした実力と倫理観を持つとともに、常に考え続けなければならないことも意味しています。これからが本当の勉強です。前向きに、明るく、元気に、そして何事にも積極的に挑戦して下さい。ご活躍を期待しています。

自立した社会人！

理工学部長 向殿 政男



ご卒業おめでとうございます。光陰矢の如し、明治大学に入学して以来あつという間の4年間であったことと思えます。皆様がこれから活躍する社会は価値観の違いによる新制度への移行の時代です。この変化の時代にこそ若者の叡智と果敢な活力が求められています。大学で学んだこと、教

卒業おめでとう。卒業おめでとうございます。光陰矢の如し、明治大学に入学して以来あつという間の4年間であったことと思えます。皆様がこれから活躍する社会は価値観の違いによる新制度への移行の時代です。この変化の時代にこそ若者の叡智と果敢な活力が求められています。大学で学んだこと、教

更なる研鑽を

農学部長 米山 勝美



面し、意気消沈することもあつてしょう。人生はこれからが本番です。明治大学の卒業生としての自信と誇りを持って、より一層の研鑽に努め、社会の期待に応えられる人間として成長されることを願っています。皆様のご活躍を期待しています。

君たちは、学生時代に賞味期限切れ商品のラベル張り替え事件による雪印乳業の解散、巨大企業ダイエーの破綻、リコール隠し問題による三菱自動車の信用失墜、戦後の日本経済を支えてきた二チメンの消滅、西武王国の崩壊など、名門だとか大企業だとか何の意味もない出来事を数多く見てきた。反面、今までそれほど名前も知られていなかったIT関連企業のライブドアがニッポン放送の危機管理の甘さについてその筆頭株主に躍り出た。生きた経営学である。これは、社会人になる君たち卒業生にもいえることである。自分自身が社会から取り残されないためには、常に自己改革をしていかなければならないであろう。

生きた経営学

経営学部長 平井 克彦



2年間の本学各専攻の課程を修めた短期大学最後の卒業生となつたみなさん、ご卒業おめでとう。私は、入学にあたり「伝統の襷をかけたアンカーの快走に期待する」と激励しましたが、みなさんは立派にこれを成し遂げられました。ところで、新世紀に入り、法律・経済・経営の改革が急速に進められていますが、進められていく中で、女性が必要が相まって、女性が先頭に立つて活躍することが期待されています。名門「明短」卒のみなさんであればこそ、周囲の期待に沿いながら、「個性が輝く」より高い自己実現を目指してさらに努力を重ねて下さい。

「女性の時代」の先頭を走れ

短期大学長 中村 義幸



2年間の本学各専攻の課程を修めた短期大学最後の卒業生となつたみなさん、ご卒業おめでとう。私は、入学にあたり「伝統の襷をかけたアンカーの快走に期待する」と激励しましたが、みなさんは立派にこれを成し遂げられました。ところで、新世紀に入り、法律・経済・経営の改革が急速に進められていますが、進められていく中で、女性が必要が相まって、女性が先頭に立つて活躍することが期待されています。名門「明短」卒のみなさんであればこそ、周囲の期待に沿いながら、「個性が輝く」より高い自己実現を目指してさらに努力を重ねて下さい。

さよなら明治



法 学 部 法 学 法 悠 佑

私にとって、この4年間の大学生活の中心は部活であった。大半の時間を合宿所で過ごし、多くの情熱をヨットに注いだ。そんな生活の中で多くのことを学び、経験してきた。そして、何よりもかけがえない仲間ができた。寝食を共にし、時に励ましあい、時にぶつかりあうなかで強い絆で結ばれた。挫折を経験することもあったが、そんな仲間がいたからこそ立ち直ることができた。目標を達成することはできなかったが、この4年間の記憶は一生色褪せることはないだろうし、別の道を歩む仲間との絆も薄れることはないだろう。私は自信を持ってこう言える。「4年間を明治大学で過ごせて本当に良かった！」



商 学 部 相 馬 祐 子

私は4年間の大学生活で「とりあえず行動してみる」という行動力ある自分になることができた。世間では大学生は自由な時間があるから遊んでばかりいると言われることもありますが、私は社会

人とは違う自由な時間と立場を生かして、実りある大学生活を送ることができたと考えています。私の場合、3年次からのゼミ活動が充実のポイントでした。所属していたゼミは千代田区に区の活性化という研究内容を提言するのです。その中で私は自ら仕掛けた区との連携事業を2つも成功させることができましたが、それは自由な時間と立場があったことと研究の実践である活動を通して実行力が身についたからだと思います。



政 治 経 済 学 部 萩 原 悠 子

「明治にいてよかった」今、心からそう感じている。リビティタワーを初めて訪れたのは受験日。思い入れは無いに等しかった。そんな私が六大学野球、ラグビーに熱くなり始めたのはいつの頃からだろうか。「明治は好きになって卒業する大学」。どうもそんな魔法のワナに嵌ってしまったらしい。

縁あって入室したゼミで体験した離島生活。かけがいのない出会いにたくさんめぐり合った。全ては偶然の産物だろうか？いや、目くるめく出会いを大切にできた証だと信じて。これからも光輝くホンモノとの出会いを増やしていきたいと思う。



文 学 部 露 木 恵 美 子

日本史を学ぶこと、応援団に入っ てチアをやること、これが明治大学に入った目的でした。大学生活の多くの時間を応援活動に費やし、その合間に日本史の勉強をするような生活でしたが、悔いはありません。また教職課程を履修し、教育実習で学んだことも大きな糧になりました。

応援団ではかけがえのない仲間と出会い、応援活動を通して数え切れないほど、校歌や応援歌を歌い、「明治」に一喜一憂しました。そして、野球、ラグビー、駅伝等の試合で、現役学生だけでなく、OBの方々がこれほど熱くなるのかと驚きましたが、とても嬉しく、卒業しても自分もそうありたいと思いました。



理 工 学 部 鳥 山 顕 宏

このような貴重な経験ができ、明治大学で学べたこと、応援活動を通して多くの方々に出会えたことに感謝します。本当にありがとうございました。

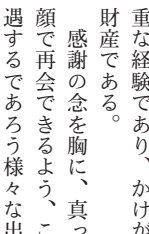
卒業という言葉は聞いても、いまだに実感がわかないというのが現実である。それ程まで大学生活の4年間というものは、あつという間に過ぎ去ってしまった。今、大学生活を振り返ると様々な人々に出会い、支えられてきた4年間だったと実感している。



農 学 部 農 学 羽 方 梢 恵

様々な面でサポートして頂いた先生方や行政研究所の方々、共に切磋琢磨してきた友人たち、そして、何の支障もなく大学生活を過ごさせていただいた両親に、心から感謝の意を表したい。

これからは、明治大学の卒業生として様々な人々への感謝を忘れず、明大生であったことを誇りに思い、これからの社会人としての生活を歩んでいきたい。



経 営 学 部 倉 本 頌 之

感謝の念を胸に、真っすぐな笑顔で再会できるよう、これから遭遇するであろう様々な出来事に屈することなく、今後の人生を歩んで行きたい。

大学生活は多種多様である。

私は、自分の興味のあることに積極的にとりかかった。時にはそれは勉強であつたり、趣味、遊びであつたりした。その中で、自分という「器」を作り、壊し、また作りという作業を繰り返して、以前よりはっきりとした「器」を作り上げていった。

こうして作業を行える時間と自由を、大学が、学部が与えてくれたのだと思う。この責任ある自由と時間の使い方を通して、自己決断という当たり前のことに気付かされた。



短 期 大 学 関 根 理 紗 子

これほど自由な時間は今までなかった。これまでに出会った全ての方々に心より感謝している。

明短での私の2年間は、とても充実したものでした。授業、ゼミ、短期留学……。そうだったからこそ出来事が瞬く間に過ぎ去っていききました。

母校の情報は「明治大学広報」・雑誌「明治」で

- 明治大学広報 (毎月1日発行、数回の臨時増刊号あり) 大学の動向、イベント案内など明治大学の最新情報を掲載。
- 雑誌「明治」(1月・4月・7月・10月発行) 教育・研究をはじめ、学術、文化、教養に関する情報を発信。
- ▷購読料=いずれも年額2,000円
- ▷申し込み・問い合わせ 明治大学広報部 Ⅷ: 03-3296-4083・4084

4年間のできごと

4月2日 イチロー、米大リーグ公式戦に初登場。首位打者・盗塁王を獲得、新人王、ア・リーグ最優秀選手に...

2004年度卒業生数

Table with 3 columns: Department (学部), Graduates (卒業生数), Total (学部計). Includes categories like Law (法学部), Commerce (商学部), Political Economy (政治経済学部), etc.

◇答 辞◇

〈正〉吉田 靖 [法学部]
〈副〉藤野 圭介 [法学部]

◇総 代◇

法学部
〈正〉吉田 靖 [一部]
〈副〉藤野 圭介 [一部]

商学部
〈正〉下村 紘子 [一部]
〈副〉三國 悠子 [一部]

政治経済学部
〈正〉赤川 さや香 [一部]
〈副〉澁川 綾子 [一部]

文学部
〈正〉有我 このみ [一部]
〈副〉石見 明子 [一部]

理工学部
〈正〉西 祥吾
〈副〉橋本 直子

農学部
〈正〉塚田 里美
〈副〉北村 圭大

経営学部
〈正〉渡邊 祥夫
〈副〉栗原 悟史

短期大学
〈正〉狭間和歌子
〈副〉河野 友里

大学院 (博士前期課程)
〈正〉市田 裕之 (農 研)
〈副〉新井恵利子 (農 研)

◇2005年◇

1月11日 青色発光ダイオード (LED) を開発した中村修二カリフォルニア大教授が、日亜化学工業に特許権の譲渡対価を求めた訴訟は、日亜側が約8億4300万円を支払うことなどを条件に和解成立...



磨いた「個」を胸に
いま羽ばたく



明治大学カード卒業生入会キャンペーン
卒業式当日、リバイタワー1階エントランスホールにて受付
初年度年会費無料&明大グッズをもらえるプレゼント

卒業してからの図書館の利用について
卒業後も図書館を利用したい方のために「ライブラリーカード」を発行しています。本人および住所が確認できるもの(運転免許証、健康保険証等)...